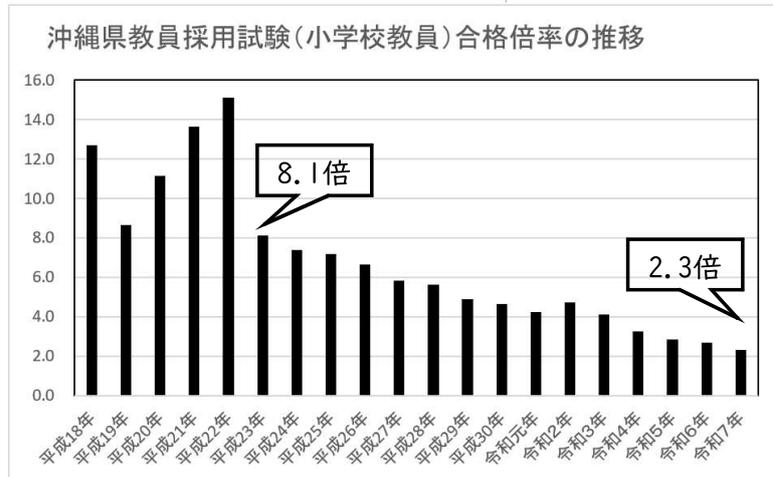


児童玄関を開ける時刻を8時にするについて

I 前提として なぜ、教員の働き方改革は必要なのか・・・それは子ども達のため

1 沖縄県教員候補者選考試験(小学校) 倍率の推移

	受験者数	合格者数	倍率
平成18年	1536	121	12.7
平成19年	1565	181	8.6
平成20年	1503	135	11.1
平成21年	1446	106	13.6
平成22年	1481	98	15.1
平成23年	1733	214	8.1
平成24年	1634	222	7.4
平成25年	1575	220	7.2
平成26年	1482	223	6.6
平成27年	1361	234	5.8
平成28年	1268	225	5.6
平成29年	1165	238	4.9
平成30年	1097	236	4.6
令和元年	1011	239	4.2
令和2年	1008	214	4.7
令和3年	886	216	4.1
令和4年	775	239	3.2
令和5年	803	284	2.8
令和6年	715	266	2.7
令和7年	702	302	2.3



2 なぜこうなってしまったのか [分析 (資料や大学関係者の話を元に)]

(1) 若者の仕事に対する価値観の変化

昔・・・栄養ドリンクのCM「24時間働けますか」に象徴される仕事観

今・・・社会の変化(共働きの増加も含め)

仕事とプライベートのバランス(ワークライフバランス)を重視する若者の増加

(2) 教員(教育現場)の、いわゆる「ブラック」な状況の認知が広がった

(3) 12年前の県内教員養成系学部での話

- ① 教授「教育実習後に、教員をめざすことをやめる(あきらめる)学生が増加している。」
学生「教員にはなりたいが、やっていけるのか不安」

※ 少なくとも12年前から、せっかく夢ややりがいを感じて教員養成系学部に入ったのに、学校現場の状況を見て、夢を諦めている若者が多数いる現実がある。

[今は、「ブラックな職場」と言う認知が広がり、教員になろうという若者自体も減っているのかもしれない・・・(あくまでも推測ではあるが)]

まとめ(学校の危機的状況)

教員がいなければ、学校教育は成り立たない。学校教育は立ちゆかなくなる。
将来の学校教育を支えるのは、今の若者である。
将来にわたって学校教育を充実させ、将来の子ども達に教育を保障するためには、

今、若者に教員という仕事の「やりがい」を伝えること。

そして、若者が働きたいと思える職場環境にすること(働き方の改革)が必要

将来の子ども達のために、「今」動かなければ、教育は破綻する。

県教育委員会は、2023年に「働き方改革推進課」を立ち上げた。その裏には相当の危機感があったのだと思われる・・・

II 児童玄関を開ける時刻を8時にすることについて

【現状】 学校職員の勤務時間8:15開始
その25分前に児童を受け入れている(2026年3月現在)

1 問題点

- (1) 空白の25分間の(教員の勤務、児童の管理)
- (2) 働き方改革以前の問題ではないか。
- (3) 先生方は対応してくれている。でも、この状況を看過して良いのか

2 2022年度以降の学校の対応

2022年度

- 9月、児童玄関を開ける時間を7:30から7:50に変更
- 市教育委員会に相談
→県内公立全校8:15出勤になっていることの確認。
解決策見つからず。一部職員の早出勤を相談
- 児童玄関を開ける時刻を8:00にすることをPTA役員会で相談
→児童が家を出る前に保護者が出勤する現状に対する不安等、反対の声
→8:00にすることを断念

2023年度

- 一部職員の時間差出勤(早出勤早退勤)実施
→早退勤できず残業増、研修等出張時の退勤時刻の問題
- 学校評議員会で相談
→民間企業の視点から「学校が対応すべき」との意見も出るが解決策見つからず(※)
※ 学校には、人材を増やすなどの権限はなく、できることに限りがある。

2024年度

- 一部職員の時間差出勤(早出勤早退勤)実施→昨年度同様、課題多数
- 市教育委員会に再度相談
- 学校運営協議会で相談
→現状がおかしいという意見も出るが解決策見つからず

2025年度

- 一部職員の早出勤廃止(ボランティアでやっていた状況)
- 次年度より8時に解錠することをPTA役員会および学校運営協議会で報告

※ 上記以外にも、

- 当時の市教育長に相談
- 市校長会で複数回話題に出した(時期・回数不明)
- PTA役員で検討・対応して下さった(動いて下さったことに感謝)
- 一部市議会議員が行政に問い合わせて下さった(動いて下さったことに感謝)

でも、解決の見通しさえない状況・・・
4年前と何も変わらず・・・

3 今後について

2026年4月より、児童玄関を開ける時刻を8:00にする。

(上記判断に至った理由)

- この4年間、学校としてできることはやってきた。また、PTAも考えてくれた。それでも、解決策は見つからなかった。本来であれば、学校評議員が話したとおり(※)、学校が解決するのが一番いいのかもしれない(その際は行政の協力は不可欠)。でも、それも難しい(人員数、勤務内容、勤務時間、会議等意思疎通等、様々な課題)。

家庭の状況は理解できるし、行政の状況も理解できる。しかし、だからと言ってこの課題を学校職員が厚意だけで背負うのは違うのではないか。(学校職員にも自分の子どもがいるし、勤務時間もある。)

今までは学校が背負っていても大きな問題にはならなかった(企業戦士、「24時間働けますか。」の世界)。でも、そんな時代はだいぶ前に終わっている。このままでは教員のなり手が減り、学校教育が立ちゆかなくなる。(大きな危機感)

周りの方々には、学校(教員)の状況も理解してほしい。そして、優秀な若者が教員になり将来の渡って学校が持続可能なように(前ページ参照)協力してほしい。

このような状況(他にも様々ある)を看過してきたことが、学校現場のブラック化に繋がりがり、ひいては、今の教員不足に繋がっているのではないかと・・・

いろいろ課題はある。課題はあるが、児童玄関を開ける時刻は8:00にしたい。
(それでも、職員の出勤時刻の15分前に児童が登校する状況であり、課題が完全に解決されるわけではないが・・・)